

令和6年2月18日(日)施行

第213回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解答

第1問

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1	普 通 預 金	50,000,000	資 本 金	50,000,000
2	現 金	10,000,000	手 形 借 入 金	10,000,000
3	支 払 手 付 金	300,000	当 座 預 金	300,000
4	現 金	150,000	売 上	200,000
	売 掛 金	50,000		
	売 上 原 価	100,000		
5	所 得 税 預 り 金	480,000	現 金	480,000
6	貸 倒 損 失	596,000	売 掛 金	596,000
7	繰 越 利 益 剰 余 金	184,000	損 金	184,000

第2問

(ア)	¥	4,000,000	(イ)	¥	2,000,000	(ウ)	¥	14,000,000
-----	---	-----------	-----	---	-----------	-----	---	------------

第3問

< >の番号は伝票のNo.を示す。

現 金	
1/31 (売掛金) <30> [460,000]	1/16 (仮払金) <23> [300,000]

仮 払 金	
1/16 (現金) <23> [300,000]	1/30 (旅 費) <19> [300,000]

売 掛 金	
	1/31 (現金) <30> [460,000]

旅 費	
1/30 (仮払金) <19> [300,000]	

第4問

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

D 商 品

令 和 5 年	摘 要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	
11	1	前月繰越	500	250	125,000				500	250	125,000
	5	仕 入	3,000	300	900,000				500	250	125,000
									3,000	300	900,000
	17	売 上				500	250	125,000			
						2,000	300	600,000	1,000	300	300,000
	24	仕 入	800	350	280,000				1,000	300	300,000
									800	350	280,000
	28	売 上				1,000	300	300,000			
						200	350	70,000	600	350	210,000
	30	次月繰越				600	350	210,000			
			4,300		1,305,000	4,300		1,305,000			
12	1	前月繰越	600	350	210,000				600	350	210,000

第5問

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	353,000						353,000	
当座預金	410,000						410,000	
普通預金	181,000						181,000	
売掛金	120,000						120,000	
貸倒引当金		1,000		5,000				6,000
繰越商品	51,000		63,000	51,000			63,000	
貸付金	500,000						500,000	
備品	2,400,000			400,000			2,000,000	
買掛金		152,000						152,000
借入金		200,000						200,000
資本金		3,000,000						3,000,000
繰越利益剰余金		87,000						87,000
売上		3,050,000				3,050,000		
受取利息		10,000				10,000		
仕入	915,000		51,000	63,000	903,000			
給料	813,000		130,000		943,000			
広告費	111,000				111,000			
交通費	67,000				67,000			
通信費	33,000				33,000			
消耗品費	21,000			2,000	19,000			
支払家賃	480,000			240,000	240,000			
水道光熱費	24,000				24,000			
租税公課	15,000				15,000			
支払利息	6,000				6,000			
	6,500,000	6,500,000						
貸倒引当金繰入			5,000		5,000			
減価償却費			400,000		400,000			
消耗品			2,000				2,000	
未払給料				130,000				130,000
前払家賃			240,000				240,000	
当期純利益					294,000			294,000
			891,000	891,000	3,060,000	3,060,000	3,869,000	3,869,000

令和6年2月18日（日）施行

第213回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解説

第1問

1. 会社設立時の処理

株式会社を設立するためには、株式を発行し資金を調達する。

株式会社設立に際し、株式を発行した場合、資本金勘定を用いて処理をする。

資本金の額	株式 1,000 株 × @ ¥50,000 = ¥50,000,000
-------	--------------------------------------

2. 手形借入の処理

手形には、通常の営業取引に使用する商業手形と資金の貸借のために使用する金融手形がある。

商業手形の場合	受取手形勘定・支払手形勘定
金融手形の場合	手形貸付金勘定・手形借入金勘定

現金を借り入れ、借用証書の代用として約束手形を引き渡した場合は、手形借入金勘定を用いて処理をする。

3. 商品注文時の手付金支払い時の処理

商品を注文し、手付金を支払った場合、支払手付金勘定を用いて処理をする。

4. 売上原価対立法 他店振出小切手受取時の処理

商品売買取引に関して、販売のつど、売上原価勘定に振り替える方法で記帳している場合、商品勘定、売上原価勘定、売上勘定を用いて処理をする。（売上原価対立法）

売価は、売上勘定を用いて処理をする。

売	価	B 商品 500 個 × @ ¥400 = ¥200,000
---	---	--------------------------------

原価は、商品勘定から売上原価勘定に振り替える処理をする。

原	価	B 商品 500 個 × @ ¥200 = ¥100,000
---	---	--------------------------------

又、代金のうち ¥150,000 は山形株式会社振り出しの小切手（他店振出小切手）で受け取った場合、現金勘定を用いて処理をし、残額は掛けとしたので売掛金勘定を用いて処理をする。

残額（掛け代金）	代金 ¥200,000 - 小切手受取分 ¥150,000 = 掛け代金 ¥50,000
----------	--

5. 従業員負担の所得税を納付した場合の処理

従業員から預かった所得税の源泉徴収額を納付した場合は、所得税預り金勘定を取り崩す処理をする。所得税預り金勘定は負債勘定なので、負債の減少として借方に記入する。

6. 貸し倒れの処理

当期に生じた売掛金が回収不能となった場合は、貸倒損失勘定を用いて処理をする。

7. 会社決算時の処理（資本振替仕訳）

当期純損失が算定された場合、損益勘定の借方残高から繰越利益剰余金勘定へ振替える処理をする。

第2問

各金額の算定は、計算することのできる空欄から求める。

期首貸借対照表・純資産（資本）・・・(ア)

期首純資産（資本）＝期首・資産－期首・負債

期首純資産（資本）＝10,000,000－6,000,000

期首純資産（資本）＝4,000,000・・・(ア)

損益計算書 当期純利益・・・(イ)

当期純利益＝損益計算書貸方合計－諸費用

当期純利益＝238,000,000－236,000,000

当期純利益＝2,000,000・・・(イ)

期末貸借対照表・資産・・・(ウ)

期末・純資産（資本）＝期首純資産（資本）＋当期純利益

期末・純資産（資本）＝4,000,000＋2,000,000

期末・純資産（資本）＝6,000,000

期末・資産＝期末・負債＋期末・純資産（資本）

期末・資産＝8,000,000＋6,000,000

期末・資産＝14,000,000・・・(ウ)

第3問

まず各伝票の取引の仕訳をする。

令和 6年 1月 16日 出金伝票 No. 23

(借) 仮払金	300,000	(貸) 現金	300,000
---------	---------	--------	---------

令和 6年 1月 30日 振替伝票 No. 19

(借) 旅費	300,000	(貸) 仮払金	300,000
--------	---------	---------	---------

令和 6年 1月 31日 入金伝票 No. 30

(借) 現金	460,000	(貸) 売掛金	460,000
--------	---------	---------	---------

以上の仕訳を転記する。

第4問

11月5日 D商品を@¥300で3,000個仕入れ、代金は掛けとした。

受入欄には下記の通り記入する。

数量：3,000 単価：300 金額：900,000 (11月5日仕入分)

D商品の前月繰越分@¥250と11月5日に仕入れた分@¥300は単価が異なるので、残高欄には合算して記入することができない。

よって、残高欄には下記の通り、前月繰越分と11月5日仕入れた分を併記する。

{	数量：500 単価：250 金額：125,000 (前月繰越分)
	数量：3,000 単価：300 金額：900,000 (11月5日仕入分)

11月17日 D商品を@¥500で2,500個売り渡し、代金は掛けとした。

商品の払出単価の決定は先入先出法によっており、売り渡した2,500個のうち、500個は前月繰越分の@¥250を先に全て払い出したと仮定し、残りの2,000個は、11月5日に仕入れた分@¥300を払い出したと仮定する方法で記録をおこなう。

よって払出欄には下記の通り、前月繰越分と11月5日に仕入れた分を併記する。

{ 数量： 500 単価：250 金額：125,000 (前月繰越分)
数量：2,000 単価：300 金額：600,000 (11月5日仕入分)

そして、残高欄には下記の通り、11月5日に仕入れた分のみを記入する。

数量：1,000 単価：300 金額：300,000 (11月5日仕入分)

11月24日 D商品を@¥350で800個仕入れ、代金は掛けとした。

受入欄には下記の通り記入する。

数量： 800 単価：350 金額：280,000 (11月24日仕入分)

D商品の11月5日に仕入れた分@¥300と11月24日に仕入れた分@¥350は単価が異なるので、残高欄には合算して記入することができない。

よって、残高欄には下記の通り、11月5日と11月24日に仕入れた分を併記する。

{ 数量：1,000 単価：300 金額：300,000 (11月5日仕入分)
数量： 800 単価：350 金額：280,000 (11月24日仕入分)

11月28日 D商品を@¥600で1,200個売り渡し、代金は掛けとした。

商品の払出単価の決定は先入先出法によっており、売り渡した1,200個のうち、1,000個は11月5日に仕入れた分@¥300を先に全て払い出したと仮定し、残りの200個は、11月24日に仕入れた分@¥350を払い出したと仮定する方法で記録をおこなう。

よって払出欄には下記の通り、11月5日に仕入れた分と11月24日に仕入れた分を併記する。

{ 数量：1,000 単価：300 金額：300,000 (11月5日仕入分)
数量： 200 単価：350 金額： 70,000 (11月24日仕入分)

そして、残高欄には下記の通り、11月24日に仕入れた分のみを記入する。

数量： 600 単価：350 金額：210,000 (11月24日仕入分)

11月30日 帳簿の締め切りをおこなう。

次月繰越の行には、11月28日に残高欄へ記入した「数量600 単価350 金額210,000」を払出欄に記入し、受入欄と払出欄の合計欄に数量と金額のそれぞれ合計したものを下記の通り記入し、受入欄と払出欄の数量と金額の合計がそれぞれ一致することを確認する。

受 入			払 出		
数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
4,300		1,305,000	4,300		1,305,000

12月1日 帳簿の開始記入をおこなう。

前月繰越の行には、11月30日に次月繰越の行に記入した「数量600 単価350 金額210,000」を受入欄と残高欄にそれぞれ記入する。

第5問

決算整理事項

1. 売上原価の算定

期首商品棚卸高 解答用紙の残高試算表・繰越商品勘定の借方残高より ¥51,000

(借) 仕 入	51,000	(貸) 繰 越 商 品	51,000
繰 越 商 品	63,000	仕 入	63,000

2. 貸倒引当金の見積り

売掛金勘定の期末残高 解答用紙の残高試算表・売掛金勘定の借方残高より ¥120,000

貸倒引当金の見積額 ¥6,000

貸倒引当金見積額の計算 $¥120,000 \times 5.0\% = ¥6,000$

貸倒引当金勘定の期末残高 解答用紙の残高試算表・貸倒引当金勘定の貸方残高より ¥1,000

貸倒引当金繰入額 ¥5,000

貸倒引当金繰入額の計算 $¥6,000 - ¥1,000 = ¥5,000$ ※

※差額補充法により処理をする。

(借) 貸倒引当金繰入	5,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	5,000
-------------	-------	---------------	-------

3. 減価償却費の計算

備品の取得原価 解答用紙の残高試算表・備品勘定の借方残高より ¥2,400,000※

※当期首に取得したものであるため。

当期の減価償却費(定額法) ¥400,000

減 価 償 却 費 の 計 算 $¥2,400,000 \div 6 \text{年(耐用年数)} = ¥400,000$

直接法により記帳するので、備品勘定から直接控除する。

(借) 減 価 償 却 費	400,000	(貸) 備 品	400,000
---------------	---------	---------	---------

4. 消耗品の未使用高

消耗品の未使用高 ¥2,000 を消耗品費勘定から消耗品勘定へ振り替える処理をする。

(借) 消 耗 品	2,000	(貸) 消 耗 品 費	2,000
-----------	-------	-------------	-------

5. 給料の未払高(費用の見越し)

給料の未払分が当期に該当する場合、当期の費用として給料勘定を用いて処理をし、次期に支払う義務として未払給料勘定を用いて処理をする。

(借) 給 料	130,000	(貸) 未 払 給 料	130,000
---------	---------	-------------	---------

6. 家賃の前払高(費用の繰延べ)

支払家賃に、次期に該当する ¥240,000 が含まれている場合、支払家賃勘定から前払家賃勘定へ振り替える処理をする。

(借) 前 払 家 賃	240,000	(貸) 支 払 家 賃	240,000
-------------	---------	-------------	---------